



Robert Whiting 外国人を描き、独特の日本文化比較論を展開した。この逆パージョン『和をもって日本と成す』(1ともいえる本コラム「サクラと星条旗」は2007年から好評連載中。

### 世界一の都市だが

多くの人が気づかない。人に親切、タクシーでいると思いが、東京はいま黄金時代にある。東京と近隣4県をまとめた「首都圏」には3800万人が住み、世界最大級の都市である。同時に米経済誌がまとめた「世界で最もリッチな10都市」のリストでも1位にランクされた。首都圏の都市別GDP(総生産)は1兆5200億(166兆8000億円)にのぼり、ニューヨーク、ロサンゼルス、ソウル、ロンドン、パリをリードしている。世界一清潔で安全な都市でもある。交通網は世界のどの都市より優れ、識字率が高く、どの都市の人たちより長生きすると思われている。礼儀正しく、ファッション感度も優れている。パリを含む世界のどの都市よりミシュランから星を与えられたレストランが多い。町のエネルギーは、ノーストックで続くビル建設に象徴される。東京は今や世界の都市が、ぜひ訪れてみたい都市。旅行に関する世界最大のサイト「トリップ・アドバイザー」は2017年に世界の都市の満足度を調査。東京が1位に輝いた。

## オリンピックは近年トラブル続き

# 2020東京五輪

# 最悪のシナリオ

た。初めて東京を訪れたときの思い出を「爆発的」で、人生を変える出来事。東京は常に変化を続けている。それをもちと体験したいと思った」と話した。彼の言わんとすることはよく理解できる。私も50年前に日本に来たとき、全く同じように感じたからだ。当時の東京は1964年の東京五輪に備え、歴史上最もすごい変貌を遂げた。それを目の当たりにした人間として、2020年の東京五輪の準備状況にも少なからず関心を抱いている。今私の住んでいる豊洲周辺でもオリンピック村やスポーツ施設の建設が進んでいる。今から4年前には、ロボットの一大団が同時通訳をこなし、運ばれた。5色にライトアップされた都庁(昨年7月24日撮影)。東京という都市の世界的評価は極めて高い。なされた。それらの実現性はいつか消滅したが、東京が世界一の都市であること改め誇示できる最大のチャンスが東京五輪であることに違いない。ただ、それもこれも、何も悪いことが起こらなかつたら、という前提付きだ。近年の五輪はトラブル続きだ。16年リオデジャネイロ五輪では、ブラジル経済が悪化。警官と消防士が給料未払いを空港で抗議した。蚊を媒介とするシカ熱病も発生。五輪後、五輪委員会長だったカルロス・ヌスマンが五輪招致をめぐる買収疑惑で逮捕、起訴された。12年のロンドン五輪ではドーピング違反で29個のメダルが剥奪された。08年の北京五輪では、25万人の子供たちにアカデミーで厳しい訓練を課す中国の国家ぐるみのトレーニング・プログラムに批判が殺到した。04年のアテネ五輪の男子マラソンでは、トップを走っていた走者が残り10km地点で暴漢に襲われた。00年のシドニー五輪ではトップ・アスリートがステロイド使用でメダルを剥奪された。1996年のアトランタ五輪では爆発事件が発生し、数十人が負傷した。では、2020年東京五輪がうまくいかない要素とは？まず酷暑だ。期間中、選手や観衆から死者が出る可能性がある。数百人単位で病院に救急搬送されるだろう。東京湾の大腸菌が健康被害をもたらす可能性もある。悔める人が出てくるかもしれない。そこで最後は、オリンピックの歴史に詳しく、永遠の楽観主義者であるロイ・トミザワ氏の以下の文章で締めくくりたい。「2020年東京五輪が行われるまでは、多くの騒ぎとネガティブな報道が続くだろう。これほど大金のからむイベントだから致し方ない。だが、最後はアスリートたちの物語で終わる。苦しみ、もがいた末の勝利や感動のフェアプレーが連日新聞の見出しを飾り、数百万の若者に勇気を与え、将来のオリンピックを誕生させる」

悲観論だけでなく

政府は人工知能(AI)を使った高精度の同時通訳システムを2020年までに実用化するとしているが、そのクオリティが、これまでに私が見た通りのものだとすると、人間とロボットの会話レベルのコミュニケーションに終わる恐れがある。燃料に水素を使うというところが、これを推進する人々は、ドイツの「ヒンデンブルク号爆発事故」(1937年5月)を忘れてしまったのだろうか。

人工流星群が落ちる!?

転手のない車が町を走り。藻や水素を使ったクリーンエネルギーが使われ、リニア新幹線が走り。小型衛星で人工的に流星群を作り出すアイデアなどもさまざまな提案がなされた。それらの実現性はいつか消滅したが、東京が世界一の都市であること改め誇示できる最大のチャンスが東京五輪であることに違いない。ただ、それもこれも、何も悪いことが起こらなかつたら、という前提付きだ。近年の五輪はトラブル続きだ。16年リオデジャネイロ五輪では、ブラジル経済が悪化。警官と消防士が給料未払いを空港で抗議した。蚊を媒介とするシカ熱病も発生。五輪後、五輪委員会長だったカルロス・ヌスマンが五輪招致をめぐる買収疑惑で逮捕、起訴された。12年のロンドン五輪ではドーピング違反で29個のメダルが剥奪された。08年の北京五輪では、25万人の子供たちにアカデミーで厳しい訓練を課す中国の国家ぐるみのトレーニング・プログラムに批判が殺到した。04年のアテネ五輪の男子マラソンでは、トップを走っていた走者が残り10km地点で暴漢に襲われた。00年のシドニー五輪ではトップ・アスリートがステロイド使用でメダルを剥奪された。1996年のアトランタ五輪では爆発事件が発生し、数十人が負傷した。では、2020年東京五輪がうまくいかない要素とは？まず酷暑だ。期間中、選手や観衆から死者が出る可能性がある。数百人単位で病院に救急搬送されるだろう。東京湾の大腸菌が健康被害をもたらす可能性もある。悔める人が出てくるかもしれない。そこで最後は、オリンピックの歴史に詳しく、永遠の楽観主義者であるロイ・トミザワ氏の以下の文章で締めくくりたい。「2020年東京五輪が行われるまでは、多くの騒ぎとネガティブな報道が続くだろう。これほど大金のからむイベントだから致し方ない。だが、最後はアスリートたちの物語で終わる。苦しみ、もがいた末の勝利や感動のフェアプレーが連日新聞の見出しを飾り、数百万の若者に勇気を与え、将来のオリンピックを誕生させる」

## 華やかな舞台裏で抱える「爆弾」、琉球GCで女子開幕戦「ダイキンオーキッド」

スポーツ記者歴40年

清水 満の SPORTS BAR

3月、春がきた！ いよいよ女子ゴルフツアーも始まる。7日からの「ダイキンオーキッド」(沖縄・琉球GC)が開幕戦である。今季、シード選手の顔ぶれがグンと若返った。最年少は今年2月に20歳になったばかりの原英莉花。「ジャンボ軍団」の秘蔵っ子。さらに小祝さくら、松田鈴英、勝みなみ、新垣比菜ら11人が初シード。みんな20歳を過ぎたばかりの若手実力派たち

である。復帰組は、昨季6年ぶりツアー14勝目を挙げた有村智恵、昨季初優勝を遂げた香妻琴乃ら7人。そしてシード50選手の平均年齢は26.4歳、記録が残る2001年以降では13年の26.7歳を更新し「最年少」記録となった(年齢は昨年シード決定時点)。女子の魅力はゴルフだけでなく、色鮮やかなファッションを含めての「ビジュアル」。おかげで近年、隆盛を極めているが、舞台裏では「爆弾」も抱えている。くすぶる放映権問題である。今季は一時「3試合撤退」が決まったが、最終的には昨年より1試合増の



モデルも顔負けの原英莉花のプロポーション。人気が沸騰するのは当然か

39試合、賞金総額も39億4500万円と8年連続アップ。しかし来季以降は予断を許さないのが現状である。日本女子プロゴルフ協会(LPGA)の小林浩美会長が「放映権はLPGAに帰属し、一括管理する。主催者側にも納得いただいた」としている件である。LPGA側の一方的とも思える主張があっただけに、大会を主催、放映するテレビ局側は先月末、相次いで社長会見で反論した。「苦渋の決断だった。選手たちや関係者の利害を考えて今年のツアーに関してはサインしたが、放映権問題は継続。納得はしていない」(日本テレビ)、「選手に迷惑がかかり、ファンの方のことも考えて今季は放送するが、来季(放映権)の協

議が進展しないなら、放送を断念せざるをえない」(TBS)……。何とも不気味な警告!? 他局も同様の姿勢であり、今後の協議次第によっては来季は一気に激減するかもしれないムードなのである。LPGAが財政立て直しの基盤として主張した放映権。協会がもくろんだ動画配信業者への放映権販売も当初の予定では開幕からスタートするはずが、目下メドさえ立っていないという。表面的には隆盛ムードで開幕戦を迎えるが、中身は結構ヤバイ……。選手たちは今、小林会長ら幹部は今……。これは直接聞くしかないですね。というわけで、暖かい沖縄に行かなきゃ。ん!? (産経新聞特別記者)